

日蓮大聖人御書全集

しじゅうくいんごしよ

四十九院御書

新版
2039

しじゅうくいんごしよ

四十九院御書

けんじ ねん

建治4年('78)

57 さい
歳

しじゅうくいんとう

か べつとうとう むち もの

四十九院等のこと、彼の別当等は無智の者たるあいだ、

にちれん む

おそ お だいちぼうとう あだ

日蓮に向かつてこれを恐る。小田一房等、怨をなすか。い

かれ じゃほうめつ

せんちよう ねあらわ

えだか

よいよ彼らが邪法滅すべき先兆なり。「根露るれば枝枯れ、

みなもとつ

なが っ ほんもん むな

源 竭くれば流れ尽く」という本文、虚しからざるか。

こうぼう じかく ちしよう さんだいし ほけきようひぼう たいか しひやくよねん

弘法・慈覚・智証、三大師の法華経誹謗の大科、四百余年

あいだかく ねあらわ えだかれ いま にちれん きゆうめい

の間隠せる根露れ枝枯る。今、日蓮これを糾明せり。拘留

げどう いし

すうひやくねん じんなぼさつ せ いしすなわ みず

外道が石となつて数百年。陳那菩薩に責められ、石即ち水

となる。にけん 尼犍たが立とうてし塔は、馬鳴めみようこれを頽くずす。臥ふせる師子ししに
てふ 手を触るれば瞋いかりをなす等とうこれなり。